

論文審査の結果の要旨および担当者

| | | | | |
|------|---|---|---|---|
| 報告番号 | ※ | 甲 | 第 | 号 |
|------|---|---|---|---|

氏 名 奥野正隆

論 文 題 目

Evaluation of inflammation-based prognostic scores in patients
undergoing hepatobiliary resection for perihilar cholangiocarcinoma
(肝胆道切除を施行した肝門部胆管癌患者における
inflammation-based prognostic score の検討)

論文審査担当者

名古屋大学教授

主 査 委員

小寺泰弘 

名古屋大学教授

委員

後藤秀実 


名古屋大学教授

委員

横井香平 

名古屋大学教授

指導教授

柳野正人 

論文審査の結果の要旨

低栄養状態、全身炎症反応を反映する inflammation-based prognostic score は、様々な悪性疾患において病期に依存しない独立した予後不良因子であることが報告されている。しかし、肝門部胆管癌についての検討は極めて少ないため、当院で手術を施行した肝門部胆管癌 534 例を対象にその有用性について検討した。既知の 4 つの予後予測指標； modified Glasgow Prognostic Score (mGPS)、Neutrophil Lymphocyte Ratio、Platelet Lymphocyte Ratio、Prognostic Nutritional Index について Kaplan-Meier 法による生存分析を行い、mGPS のみが有意な予後因子であった。また、多変量解析で mGPS は独立した予後因子であった。4 つの既知の inflammation-based prognostic score のなかで、mGPS のみが肝門部胆管癌における独立した予後因子であることが示唆された。

本研究に対し、以下の点を議論した。

1. 胆管炎を発症している症例の血液検査結果は inflammation-based prognostic score に影響すると考えられるため、本研究では胆管炎や黄疸が治療により改善した術前 1-3 日前の結果をスコアリングに用いた。術前胆管炎を発症した患者の生存率は有意に不良であったが、術前胆管炎の有無にかかわらず、mGPS 1、2 点は mGPS 0 点に比べて有意に予後不良であった。また、多変量解析で mGPS は独立した予後因子であったが、胆管炎の有無は有意な予後因子ではなかった。胆管炎治療後の血液検査結果をスコアリングに用いた mGPS は予後因子として有用であると考えられた。
2. mGPS にのみ CRP が含まれているため、CRP が予後を反映する重要な因子であると考えられる。CRP の発現増加はインターロイキン-6、インターロイキン-8 や腫瘍壊死因子 α などのサイトカインにより調整されているため、進行癌患者の CRP の上昇はおそらくサイトカインレベルの上昇を反映していると考えられる。サイトカインによって誘発された全身炎症反応が癌患者において免疫不全を引き起こし、がんの進行をもたらすと推測している。
3. mGPS は簡便で安価であり患者の層別化に有用である。mGPS 1、2 点の患者の生存率が有意に低いことから、リンパ節転移のない症例であっても術後補助化学療法を行うことを検討している。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

試験の結果の要旨および担当者

| | | | | | |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|------|-------|-------|------|
| 報告番号 | ※甲第 | 号 | 氏名 | 奥野 正隆 | |
| 試験担当者 | | 主査 | 小寺泰弘 | 後藤 秀実 | 横井香平 |
| | | 指導教授 | 榎野 正人 | | |
| <p>(試験の結果の要旨)</p> <p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 胆管炎がinflammation-based prognostic scoreに及ぼす影響について 2. mGPSのみ予後因子であり他の3つのinflammation-based prognostic scoreが予後因子でなかった理由について 3. mGPSを臨床でどのように用いるかについて <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、腫瘍外科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p> | | | | | |